



社員自らが提案・実践を行う紙管製造現場の改善

社員の意識改革による改善活動の継続と不良品発生低減に向けた支援



旭紙管工業株式会社

昭和12年、旭紙工所で創業。その後、原爆投下による廃業、事業再開を経て、昭和35年に法人成。昭和46年には、工場を現在地に全面移転し、大型紙管製造機を導入。現在は、製紙紙管、食品包装用のフィルム紙管、梱包資材としての角紙管などさまざまな紙管を製造しています。

所在地: 広島市西区観音本町二丁目 5-14

(工場: 広島市安佐南区伴中央七丁目12-1)

URL <https://www.api1937.com/>



相談内容

製紙工場の閉鎖や生産設備停止など、紙の生産量が減少している厳しい経営環境のなか、今後、安定した経営を継続していくためには、カットロスなどを低減できる複数の短尺物から長尺物へ長さを統一することで生産効率を上げていくことが必要と考えました。長尺物を導入するに当たり、生産現場の改善に関する基礎知識や実践方法等を社員に習得させ、社員自らが改善提案を行うことができるよう意識改革を図っていくこと、併せてロスの原因となっている不良品の発生を抑える取り組みについて相談がありました。

支援内容・成果

経営支援アドバイザー派遣制度を活用し、専門家のアドバイスのもと、全社員が参加する改善に向けた討議を行うことにしました。当初、社員からの発言は少ない状況でしたが、専門家のフォローもあり、工場レイアウトの見直し検討の中で、長尺物の移動時のスペース確保、保管方法等について、社員から現場での気づきや問題点などの発言が出てくるようになり、社員参加による具体的な改善案を策定することができました。

また、不良品の発生に関しては、コーディネータが不具合発生のメカニズムを解析し、主な発生箇所を特定するとともに、紙の供給位置変更の改善策を提案しました。現在、のこ切断機の導入など、当社で独自に考えた改善策と合わせて、不良品発生低減に向けた取り組みを実践しているところです。

今回の取り組みにより、社員の意識が変わったことで、これまでできなかった改善活動を、社員自らの意思で進めていくことが可能となり、不良品発生低減の取り組みと合わせて、現在も活動を継続しています。



工場内の様子



紙管製品